

2. 第一東和会病院 地域医療従事者研修会のご案内

9月開催予定の地域医療従事者研修会は下記になります。

○第一東和会病院 NST(栄養サポートチーム)主催

演題1:「がん患者の栄養管理」

演者:株式会社 明治 中山 亜紀 氏

演題2:「当院の取り組みについて」

演者:第一東和会病院 NST 管理栄養士 矢壁 史子

日時:2019年9月11日(水) 17:30~

研修会場:第一東和会病院 5階会議室

お申し込みは、「輪」に同封しております、「第一東和会病院 勉強会参加申込書」をFAXしていただくか、もしくは、地域連携室(072-671-1118)までご連絡をお願いします。

3. 第一東和会病院 市民公開講座のお知らせ

第一部:「骨盤臓器脱の新しい治療法
~快適な生活を取り戻すヒント~」

第二部:骨盤底リハビリ体操

講師:第一東和会病院

女性泌尿器科部長 竹山 政美

女性泌尿器科医員 鎌田 知子

日時:2019年9月28日(土)

10:00~11:30(開場9:30)

場所:高槻市立生涯学習センター

多目的ホール

会費:無料 先着150名様

皆さまのご来場をお待ちしております。

4. 東和会グループ

第50回高槻まつり参加報告

8月3日(土)に東和会グループで参加いたしました。今後も地域の活性化にご協力できるように活動してまいります。



第一東和会病院、第二東和会病院 地域連携室

TEL 072-671-1118 (第一)

FAX 072-671-1090 (第一)

受付時間 (第一)

平日 8:30~19:00

土曜 8:30~17:00

時間外休日

072-671-1008 (代表)

E-mail renkei@towa-med.or.jp



医療法人 東和会

第一東和会病院

All you need is love ...

発行日 2019年 9月 1日
第5第6号



医療法人 東和会

第一東和会病院

TOWA ~架け橋~

Monthly NEWS

連携診療所向け月刊情報誌

輪
わ

1. 副鼻腔炎、扁桃炎の手術について

第一東和会病院 耳鼻咽喉科部長 栗山 達朗



はじめに

平素は地域の開業医の先生方から患者さまをご紹介いただき、誠にありがとうございます。この場をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。

最近では耳鼻咽喉科の常勤医が在籍している病院は減少しており、少なからずリスクのある手術治療を敬遠する傾向もあるかと存じます。当院は耳鼻咽喉科で入院できる、常勤医が在籍する数少ない病院です。そのため、開業医の先生方からの、入院治療を必要とする患者さまは可能な限り受け入れております。

今回の本誌では副鼻腔炎、扁桃炎の治療につきましてご案内させていただきますとともに、当科における手術治療についてもご案内したいと存じます。

撮影者:医局長 兼

内視鏡外科センター副部長

千野 佳秀

目次

	Page
副鼻腔炎、扁桃炎の手術について	1
〃	2
〃	3
地域医療従事者研修会	4
市民公開講座のお知らせ	..4
第50回高槻まつり参加報告	...4

副鼻腔炎の治療

頭痛や膿性鼻漏、発熱を伴う急性副鼻腔炎と、膿性鼻漏や鼻閉が長期間続く慢性副鼻腔炎があります。いずれも初期治療としては内服薬や鼻処置、ネブライザーなどの保存的治療を行いますが、保存的加療で改善しない慢性副鼻腔炎については手術治療を行っております。

副鼻腔は骨の壁に囲まれた「小部屋」がいくつも集まって出来ており、それらが鼻腔と交通しております。個人差はありますが鼻腔と副鼻腔との交通路は大変狭く、通気性が悪くなると副鼻腔内部での感染を助長することとなります。手術は全身麻酔で鼻内から内視鏡を用い、骨の壁を取り除くことで「大部屋」に作り変え、通気性を良くすることにより副鼻腔炎を改善に導きます。術後2、3ヵ月は頻回の鼻洗浄やネブライザーなどの処置が必要ですが、鼻内の粘膜腫脹が落ち着けば治療は完了です。

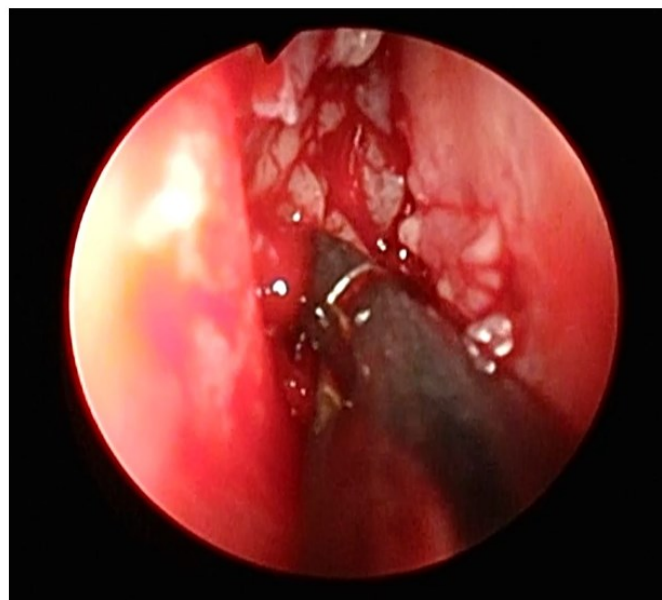
従来の副鼻腔炎では細菌感染の遷延が要因の、いわゆる「蓄膿症」が主でしたが、近年は気管支喘息と関連のある好酸球性副鼻腔炎の頻度も高くなってきております。好酸球性副鼻腔炎は再発することが知られており、手術治療と保存的治療を組み合わせた長期的な治療が欠かせません。

慢性副鼻腔炎の鼻内所見



慢性副鼻腔炎では白色のポリープ（矢印）がみられる

慢性副鼻腔炎の術中所見



内視鏡下鼻副鼻腔手術ではポリープの切除のみならず、副鼻腔の骨壁を除去し鼻腔の通気を改善させる

扁桃炎の治療

急性扁桃炎は口蓋扁桃への細菌感染が原因となって発熱、咽頭痛が起こり、時に食事が摂れないほどの強い痛みが出ます。当科では内服治療をはじめ、高熱や経口摂取不良な場合は通院や入院にて点滴加療を行っております。

このような扁桃炎を年に複数回繰り返し発症する場合は、感染源である口蓋扁桃を手術で摘出することもあります。以前罹った発熱、咽頭痛が扁桃炎によるものであると耳鼻咽喉科医により（当科でも地域の開業医の先生方でも）診断されたものであれば、当科でも積極的に手術治療をお勧めしております。

手術は感染が落ち着いている時期に全身麻酔で口腔から摘出を行います。術直後は咽頭痛のためなかなか食事が取れませんが、翌日以降軟らかい食事であれば徐々に食べられるようになります。扁桃摘出術の合併症で最も注意が必要なのが術後出血であり、特に手術当日と、術後5日から7日がハイリスクな時期といわれます。当科では術後出血のリスクが過ぎた術後7日までは注意深く入院観察を行っております。傷が安定するまでは激しい運動や硬い食べ物の摂取は控えるよう指導しており、術後2週間を目安に傷がきれいに治癒していることを確認し、これらの制限を解除するようにしております。

おわりに

当科では副鼻腔炎と扁桃炎については外来通院での保存的治療、入院での手術治療ともに対応しており、患者さまごとに適切な治療法のご提案を行っております。ご不明な点がございましたら、何なりとご依頼・ご相談下さい。

急性扁桃炎



口蓋扁桃に発赤と膿栓をみとめる